

日本版アーツカウンシルの始動

東京芸術劇場副館長
高萩 宏

国と東京都で別々にではあるが時を合わせたように諸外国の文化政策にならった日本版のアーツカウンシル（芸術評議会）を整備する動きが始まった。国は芸術文化振興基金における「トップレベルの舞台芸術創造事業」の審査に関して日本版のアーツカウンシルの試行を始めている。都は東京都歴史文化財団の中にアーツカウンシル東京準備室を開設し、今年の秋には本格稼働に入る。

今回の動きは、1990年の芸術文化振興基金の設立、2001年の文化芸術振興基本法の制定に匹敵する画期的な改革だと筆者は考えている。基本法の成立後、文化庁は文化審議会の下で文化政策部会において、当面の5年間の文化政策の指針を定める基本方針を作り閣議決定してきた。2011年2月に決定された第三次基本方針の中で、重点戦略として諸外国のアーツカウンシルに相当する新たな仕組みの導入があげられた。今までの公的支援が、頑張っている芸術家・芸術団体への恩恵的な面が強かったのを、社会的必要性に基づく戦略的投資としてとらえ直すことと並行した動きである。

2011年度からは音楽、舞踊分野で、2012年度からは演劇と大衆芸能の分野で試行が始まっている。それぞれ公募によって選ばれたプログラムディレクター（PD）が1人、プログラムオフィサー（PO）が複数人、既に着任している。日本芸術文化振興会が独立行政法人であるため常勤職員の数に縛りがあり、週2日の勤務の非常勤ではあるが、公的助成金の分配に舞台芸術のそれぞれの分野の専門家が継続的に関わる制度が始まったことになる。さらに調査対象の事業単位、団体単位となるかもしれないが、若いアーティスト、制作者を調査員として採用していくことも予定されている。

先日、昨年稼働している音楽・舞踊分野のPD、POの方々にお目にかかる機会があったが、補助金をもらっている団体とじっくり制度について話し合う機会

を持ち、目から鱗がおちるような経験をしたと話していた。助成を出す側ともらう側の間に立つ人が出来、コミュニケーションが成立するようになったということだ。

東京都は1968年よりバレエなどそれぞれのジャンルの統括団体に補助金を出すかたちで「都民芸術フェスティバル」を始めている。1982年には東京都文化振興会を財団法人として立ち上げ、1983年には他の都道府県に先駆けて東京都文化振興条例を制定した。1990年頃には東京芸術劇場を始め多くの文化施設を建設したが、1996年の都市博の中止もあり、その後の財政難のなかで文化政策では新たな展開は見られなかった。2007年に福原義春資生堂名誉会長を議長とした東京芸術文化評議会を設立し、その提案に基づき都の文化政策にとって大きな転回点となる東京版のアーツカウンシルの設立に動き出した。

2012年4月にアーツカウンシル東京準備機構を東京都歴史文化財団の中に設置し、本年度中には本格的なアーツカウンシル東京がスタートする。機構長は非常勤だが、室長以下、プログラムオフィサー2名、企画担当2名、管理担当1名の計6名の常勤スタッフがそろっている。こちらも調査員という形で若手のアーティスト、制作者を雇っていくという。アーツカウンシル東京は、「独立性と専門性を有し、民間の優れた芸術文化活動を支援することなどを目的とした機関」として定義され、「専門的かつ長期的な視点による活動支援や先駆的事業の実施などを通じ、東京の文化を都民や世界に向けて創造・発信」することを目的とするとされている。「支援事業」として「東京都芸術文化発信事業助成」を東京都から引き継ぐほか、「隅田川ルネサンス事業」などいくつかの「パイロット事業」を予定している。

芸術文化振興基金の成立から20年を経て、ようやく

文化芸術への公的支援の仕組みの改革が始まったことになる。年に数回集まって申請書を審査するだけの委員として関わるのではなく、専門家が審査の基準作りや公演の評価まで継続的に関わり始めた。

これから、ピアレビュー（同業者による審査）では一歩も二歩も先んじている科学研究費助成事業の審査方法を参考に制度に手を加えていくことになる。

専門家として関わる委員の方たちには実情を踏まえた新たな制度設計への提言、課題解決型の助成制度の提案など積極的な発言を期待したい。

学会・同業団体としては彼らとの意見交換の場所を設けるなどして、この国の芸術をどうしていくのかなど活発な議論を起こすべきと思う。

これらの制度改革は確実に「日本の文化政策の歴史」の中に位置づけられていく。

今回の改革を良き改革として後世に残せるか、失敗を積み上げるだけか、責任は我々にある。

NEWS for Cultural Economics

まもなく
開催！

国際文化経済学会が同志社大学で開催されます

第17回国際文化経済学会（ACEI） 大会のご案内

2012年6月21日～24日に同志社大学を会場として開催される国際文化経済学会大会は、アジアで初めて開催される大会です。62各国から320を超える論文発表の応募があり、その中から約250の論文が選ばれ発表されます。

文化経済学会<日本>は、学会創設20周年を記念し、その総力をあげて、国際学会開催準備に取り組んでまいりました。大会の歓迎挨拶には、文化庁長官 近藤誠一氏をお迎えします。

基調講演や特別セッションのテーマも新しい研究動向を反映したものとなっています。著作権と経済の研究で著名なテキサス大学S. リーボウィッツ教授や、空間経済学で著名な経済産業研究所所長 藤田昌久教授等を基調講演に迎え、ゲーム産業、無形文化遺産、電子書籍等の特別セッション、クリエイティブ産業の統計に関する招待セッションも設けました。ゲームセッションには、京都のゲーム企業である株式会社トーセの齋藤茂社長が、無形文化遺産セッションには、元国際文化経済学会会長 D. スロスビー教授や前ユネスコ事務局長 松浦晃一郎氏が登壇されます。なお、22日は同時通訳が付きますが、他は使用言語を英語とさせていただきます。

ソーシャル・プログラムも、宗教学者 山折哲雄氏によるウェルカム・スピーチ、京都国際マンガミュージアムでの京都精華大学ベルント教授によるワークショップ、未生流笹岡家元 笹岡隆甫氏による生け花パフォーマンス、六齋念仏の上演など、多彩で魅力的なプログラムを用意しました。

是非、多くの皆様にご参加いただけますように、ご案内をさしあげます。

プログラム

| 日 | 時 | 場所 |
|-------|-------------|---|
| 6月21日 | 9:00-12:45 | 若手研究者ワークショップ（参加者限定） マンガミュージアム・ワークショップ 扶桑館 4F |
| | 14:00-14:30 | 「地域性と国際性：京都国際マンガミュージアムは、日本のマンガ文化の鏡」 ベルント教授（京都精華大学） 京都国際マンガミュージアム http://berndt.ehoh.net/ |
| | 15:00-18 | 国際文化経済学会理事会 寒梅館 6F |
| | 18:30-19:00 | ウェルカム・スピーチ 山折哲雄氏（宗教学者） 寒梅館ハーディーホール |
| | 19:00-20:00 | ウェルカム・ドリンク 寒梅館地下 |

| | | |
|-------|--|---------------------------------|
| | 歓迎の挨拶 9:00-9:30 近藤誠一氏（文化庁長官）ほか http://www.bunka.go.jp/commissioner/index.html | 寒梅館ハーディーホール |
| | 開会基調講演 Stan Liebowitz教授 9:30-10:30 Ashbel Smith Professor of Economics, Center for the Analysis of Property Rights and Innovation 「インターネットは、エンターテインメントと文化に何をもたらしたのか」 討論者 R.Towse教授 | 寒梅館ハーディーホール |
| | 10:30-11:00 休憩 | |
| | 分科会1 分科会1.1 アートと文化におけるリスクテーカー 分科会1.2 アーティストのキャリア 分科会1.3 著作権1 11:00-12:30 分科会1.4 インターネットと文化の生産 分科会1.5 文化多様性とイノベーション 分科会1.6 文化の価値と創造性1 分科会1.7 クリエイティブ・シティ1 分科会1.8 情報、専門家の批評、映画への需要 | 寒梅館 至誠館 扶桑館 寧静館 光塩館 |
| | 12:40-13:10 生け花パフォーマンス：笹岡隆甫氏（未生流笹岡家元） http://www.kadou.net/international/index.html | 寒梅館ハーディーホール |
| 6月22日 | 13:10-14:00 昼食 | |
| | 14:00-15:00 基調講演 Roberto Zanola教授（国際文化経済学会会長） | 寒梅館ハーディーホール |
| | 15:00-15:30 休憩 | |
| | 分科会2 分科会2.1 インターネットの経済学 分科会2.2 アート市場 分科会2.3 マーケットの知識：製品デザイン、広告、WTP、CR（顧客関係性マネジメント） 分科会2.4 デジタル時代の消費者情報 分科会2.5 舞台芸術1 15:30-17:00 分科会2.6 映画産業 分科会2.7 需要と社会的統合 特別セッション：ゲーム産業 齋藤茂氏（株式会社トーセ社長） http://www.tose-us.com/ 、 田中辰雄准教授（慶応義塾大学）、 Joe Cox, Univ. of Portsmouth, Nicolas Auray, Telecom-ParisTech | 寒梅館 至誠館 扶桑館 寧静館 光塩館 |
| | 分科会3 分科会3.1 クリエイティブ・クラスター 1 分科会3.2 コンテンツとプログラム、映画とテレビ産業 分科会3.3 著作権2 17:15-18:45 分科会3.4 ツーリズムの経済学1 分科会3.5 ゲームと音楽市場 分科会3.6 文化政策1 分科会3.7 クリエイティブ・シティ3 分科会3.8 聴衆 | 寒梅館 至誠館 扶桑館 寧静館 光塩館 |

| | | |
|-------------------|---|---------|
| | 分科会4 | |
| | 分科会4.1 クラフト、アート、文化 | |
| | 分科会4.2 オークションと価格1 | |
| | 分科会4.3 ミュージアム | |
| | 分科会4.4 国際貿易 | |
| | 分科会4.5 文化政策2 | |
| | 分科会4.6 アートと貿易 | |
| | 分科会4.7 文化の価値と創造性2 | |
| 9:30-11:00 | 分科会4.8 映画、ボックスオフィス | 臨光館 2F |
| | 招待セッション：ユネスコと経済産業省によるクリエイティブ産業統計 | |
| | David Throsby, Professor of Economics, Macquarie | |
| | Hristina Mikic from the Higher School of Professional | |
| | Business Studies Novi Sad in Serbia | |
| | 三原龍太郎氏（経済産業省クリエイティブ産業課） | |
| | Maria Luisa Palma, Professor, Department of Economics and | |
| | Economic History, University of Seville | |
| 11:00-11:30 | Break | |
| 11:30-12:30 | 基調講演 藤田昌久教授（経済産業研究所所長） | 新町キャンパス |
| | 知識創造における多様性と文化：バベルの塔再訪 | 臨光館 2F |
| | (http://www.rieti.go.jp/users/fujita-masahisa/index_en.html) | |
| | 討論者 M. Hutter教授 | |
| 12:30-14:00 | 昼食 | |
| | 分科会5 | 新町キャンパス |
| | 分科会5.1 クリエイティブ・クラスター2 | 臨光館 2F |
| | 分科会5.2 オークションと価格2 | |
| | 分科会5.3 クリエイティブ・クラスター3 | |
| 6月23日 14:00-15:30 | 分科会5.4 文化、開発と観光 | |
| | 分科会5.5 書籍出版 | |
| | 分科会5.6 文化政策3 | |
| | 分科会5.7 制度、地域慣習とアート | |
| | 分科会5.8 雇用と賃金 | |
| 15:30-16:00 | 休憩 | |
| | 特別セッション：無形文化遺産とアジアの視点 | 新町キャンパス |
| | D. Throsby教授（元国際文化経済学会会長） | 臨光館 2F |
| | 松浦晃一郎氏（前ユネスコ事務局長） | |
| | 後藤和子教授（文化経済学会<日本>） | |
| | Dimitar Gantchev, Acting Director of the Creative Industries | |
| | Division in the World Intellectual Property Organization (WIPO), | |
| | Geneva. | |
| | Christer Gustafsson, Director of Heritage Halland (Sweden) and | |
| | Honorary Professor, Nanjing University, China. | |
| 16:00-17:30 | 分科会6 | |
| | 分科会6.1 オンライン財への需要 | |
| | 分科会6.2 クリエイティブ・クラスター4 | |
| | 分科会6.3 芸術参加の決定要因1 | |
| | 分科会6.4 無形文化遺産 | |
| | 分科会6.5 社会的ウェルビーイングとアート | |
| | 分科会6.6 文化政策4 | |
| | 分科会6.7 フェスティバル | |
| | 分科会6.8 ヨーロッパの文化政策 | |
| 19:00 | 夕食懇親会（スポンサー:サントリー）、六斎念仏上演 | 新島会館 |

| | | | |
|-------|-------------|--|-------------------|
| 6月24日 | 9:30-11:00 | 分科会7: 分科会7.1 文化遺産の経済学1 分科会7.2 芸術参加の決定要因2 分科会7.3 文化的価値と創造性3 分科会7.4 観光の経済学2 分科会7.5 文化政策5 分科会7.6 クリエイティブ・クラスター5 分科会7.7 文化セクターにおける競争と貿易の測定 特別セッション：電子書籍 北川雅洋氏（株式会社インプレスホールディングス取締役） http://publishingperspectives.com/2011/07/cultivating-japanese-ebook-market/ 佐々木尚氏（株式会社集英社前少年ジャンプ編集長） Françoise Benhamou教授（国際文化経済学会次期会長 Univ. Paris 13） | 新町キャンパス 臨光館 2F |
| | 11:00-11:30 | 休憩 | |
| | 11:30-13:00 | 分科会8 分科会8.1 文化遺産の経済学2 分科会8.2 文化遺産とツーリズム 分科会8.3 舞台芸術と音楽マーケット 分科会8.4 文化と成長 分科会8.5 文化的価値と創造性3 | 新町キャンパス 臨光館 2F |
| | 13:00-13:45 | 昼食 | |
| | 14:00-15:30 | 国際文化経済学会（ACEI）総会 | 寒梅館ハーディホール |

ACEI2012 案内 HP

<http://www.jace.gr.jp/ACEI2012/>

学会誌「文化経済学」編集委員会より

1. 論文の投稿について

「文化経済学」は、年2回発行され、
年2回の区切りで投稿論文を受け付けています。

| | | 第10巻第1号 (通巻第34号) | 第10巻第2号 (通巻第35号) |
|----|---------|---------------------|---------------------|
| 締切 | 論文エントリー | 2012年7月末 | 2013年1月末 |
| | 論文提出 | 2012年9月末 | 2013年3月末 |

<応募・掲載条件>

論文の応募（エントリー）は本学会員に限られます。学会費が未納の方は論文のエントリーをすることはできません。掲載には、査読委員の審査を経て掲載が妥当と認められること、掲載料をお支払いいただくことが条件となっています。（2ページ毎に6,000円、ただし、50部の抜き刷りを配布いたします）

<応募方法>

FAX、email、郵送のいずれかで、下記7点を事務局（本紙末の連絡先）までお送り下さい。

①応募日付 ②応募者名 ③会員番号 ④所属 ⑤タイトル ⑥論文要旨（400字程度） ⑦応募者連絡先

<応募にあたっての留意事項>

- ・過去の研究への言及と、従来の研究の流れの中での自己の研究の位置づけ、または独自性が明確になっていること。
- ・論証や実証に必要な文献・資料の参照が行われていること。
- ・歴史的事実等については、事実が正確であるかどうかの確認を行っていること。
- ・応募する論文は未公表のものであること。また、他の学術誌等への投稿の予定がないものに限る。

・提出先・提出方法・原稿の形式などの詳細は、文化経済学会のウェブサイトを参照のこと（執筆要項は2011年5月に改訂されております）。

文化経済学会<日本>の論文募集のウェブサイト：<http://jace.gakkai.ne.jp/bosyu.html>

2. 学会誌における書評について

学会誌の書評で取り上げて欲しい本がありましたら、メールにて書名をお知らせください（宛先：katsuura@meijo-u.ac.jp）。また、書評のための献本をしていただける場合は、友岡邦之編集主幹まで送付をお願いいたします（宛先：〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学地域政策学部 友岡邦之宛。なお、事務局宛の献本は受け付けておりませんので、ご注意ください）。その後編集委員会で検討し、取り上げるべき本と判断されれば、評者を選定の上、学会誌に書評を掲載します。

理事会報告

文化経済学会<日本>第X期第7回理事会

日時：2012年 2月24日（金）16:00～18:00

場所：埼玉大学東京ステーションカレッジ A-2 教室

出席者：後藤会長、清水副会長、河島理事長、有馬、加藤、佐々木（晃）、鈴木、徳永、中谷、増淵（敬称略）、事務局2名

委任状：24名、3団体

欠席：5名

<第1号議案> 団体理事との懇談会

理事会に先立っておこなわれた団体理事との懇談会について後藤会長と河島理事長より報告があった。学会としては、企業メセナに関する研究プロジェクトを立ち上げて、団体会員と研究者が協働することを提案したとの報告があった。

今後、具体的な方策に関して、検討していくことが了承された。

<第2号議案> 会員の入退会の件

会員の入退会については、1名の入会申し込みの承認、2名の退会申し出について承認された。また、既にメールで審議され入会が承認された会員（5名）の一覧も配布され、前回の理事会時より、合計6名の入会となったことが確認された。

また、会費未納者に対して理事が手分けして督促することとなった。

<第3号議案> 2012年国内研究大会及び総会について

河島理事長より、2012年の国内研究大会については、熊本大学における秋の講演会を大会に振替ることとし、日程は、11月23～25日のうちの二日間とすることが報告され、了承された。藤原恵洋理事を担当理事とし、今後、拡充していくこととした。また、後藤会長より、大会に先立って、総会を9月29日（土）に開催することにしたいという提案があり、了承された。

<第4号議案> 第X期役員選挙に関するスケジュール等について

今回から、オンラインを中心にした選挙に移行し、郵送を併用することとなったことが確認された。

河島理事長より、選挙のスケジュールと方法について、2月10日～29日推薦役員候補者を募集し、候補者名簿を3月中に確定、本選挙を4月2日～23日に実施し、5月12日の理事会において新役員候補者決定、9月総会で承認という方針が示され、了承された。

<第5号議案> 20周年記念事業寄付金募集活動について

資料に基づき、寄付金の募集状況につき、清水副会長より説明があった。合計金額は2,561,780円。3月16日までの寄付が、国際交流基金特定寄付に相当するが、事務手続きの不備で、昨年度の一部寄付が国際交流基金特定寄付にならなかった件に関しては、寄付金を今年度の国際交流基金特定寄付に充当し、金額の相違はないとの報告があり、異議なく了承された。また、募金活動は、2012年6月まで継続する旨の報告もあった。

〈第6号議案〉アジア創造経済ワークショップについて

アジア創造経済ワークショップが11月に無事終了した旨、河島理事長より説明があった。その際、若干の剰余金が生じたので、国際交流基金の了承のもと、これを活用して東京・京都での研究会を開催することとなった。内容としては、インディアナ大学のマイケル・ラシュトン教授を招き、3月24日（東京・六本木 国際文化会館会議室）、26日（京都・同志社大学今出川キャンパス）の2日間のプログラムで実施する旨の報告があり、了承された。

〈第7号議案〉国際学会準備について

国際学会についての準備状況につき、後藤会長より説明があった。前回のコペンハーゲン大会に比べて6割程度の経費で充実したプログラムを実現する予定であり、多くの参加者を募りたいこと、関西の理事から受付業務等の支援を募集したいことが報告された。

〈第8号議案〉2013年研究大会について

河島理事長より、2013年の国内大会は従来通りの日程、開催パターンに戻し、7月上旬に東京大学での開催されることが了承された。また、とくに片山理事の協力が得られることも報告された。なお、この大会より、現地担当者の負担を軽減し、内容的にも充実を図るため、プログラム委員会を立ち上げ、当該支部地区会員たちが支援する体制で研究大会を実施することが確認された。

〈第9号議案〉2011年度秋の講演会について

増淵理事から、秋の講演会の決算について、資料に基づき報告があった。支出は予算内におさまり、内容も含めて全体として成功裏に終わったとのことであった。

入退会情報（敬称略）

●理事による書面審査にて承認（2012. 1. 31）

入会

小松旭（京都大学大学院）／原田保（多摩大学大学院）

●第X期第7回理事会（2012. 2. 24）にて承認

入会

諸伏雅代（バハレーン王国大使館経済部）

退会

2名

●理事による書面審査にて承認（2012. 4. 1）

入会

半澤誠司（明治学院大学）／平竹耕三（京都市役所）／
比留川隆祐（青山学院大学大学院）／前田厚子（慶應義塾
大学大学院）／森村佳浩（大和ハウス工業（株））

2012 年度総会のご案内

会 長 後藤 和子

今年度は、国際文化経済学会大会が開催されるため、国内大会及び総会の時期が変則になります。総会は以下の通り開催します。多くの会員の皆様の参加をお待ちします。

日時 9月29日(土) 午後3時～5時

場所 埼玉大学東京ステーションカレッジ (サピアタワー9階)

総会時に、小野田泰明理事(東北大学教授)に特別講演をお願いしています。

サピアタワーへのご案内

GUIDE MAP FOR SAPIA TOWER



なお、埼玉大学東京ステーションカレッジへの入室には、サピアタワー3階のセキュリティゲートを通す必要がございます。

セキュリティゲート通過には入館手続きが必要ですので、写真付きの身分証明書をご提示ください。

入館方法の詳細につきましては、下記のURLのPDFをご参照ください。

「埼玉大学東京ステーションカレッジの入室について」

<http://www.saitama-u.ac.jp/society/images/tsc-enter.pdf>

2012年
行事予定
のお知らせ

2012年度研究大会は11月に熊本で開催されます

2012年度研究大会のご案内

大会テーマは「地方における創造都市戦略の可能性

：都市間連携を視野に置いて」

2012年度研究大会の概要が決まりましたのでご案内いたします。今回は、2012年11月24日(土曜日)、25日(日曜日)の2日間にわたり、熊本県熊本市内にある熊本大学にて開催いたします。

◆大会テーマのねらい

地方の都市が今後の発展をにらんで都市戦略を構想するとき、創造都市は中規模クラスの都市の成長戦略として有効なのか、その条件は何か、という基本的な問題提起に基づいて、エリアとしては九州を対象に、そして想定される都市としては熊本を中心に九州の他の同クラスの都市を含めて検討を行います。

◆会場 熊本大学本荘・九品寺キャンパス (24日)、黒髪北キャンパス (25日)

・本荘・九品寺キャンパス：熊本市中央区本荘1丁目

・黒髪北キャンパス：熊本市中央区黒髪2丁目

いずれも市内中心部近く、阿蘇熊本空港、またはJR熊本駅よりバスにて40分程度

熊本大学ホームページ参照：<http://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou>

◆日程 (予定) 24日と25日で会場が変わりますので、ご注意ください。

| 11月23日 (金曜日・祝日) | 午後 (未定) | エクスカージョン |
|---------------------------------|-------------|------------------------------------|
| 11月24日 (土曜日) 熊本大学本荘・九品寺キャンパス | 13:30~14:00 | 新会長挨拶・所信表明 |
| | 14:00~14:45 | 熊本市長講演 (予定) |
| 11月25日 (日曜日) 熊本大学黒髪北キャンパス | 14:45~15:00 | 休憩 |
| | 15:00~17:30 | パネルディスカッション： 『地方における創造都市戦略の可能性』 |
| | 18:30~21:00 | 懇親会 (市内中心部会場を予定) |
| | 9:50~11:50 | 分科会1 |
| 11月25日 (日曜日) 熊本大学黒髪北キャンパス | 11:50~13:00 | 昼食・休憩 (理事会) |
| | 13:00~15:40 | 分科会2 |

◆エクスカージョン

当日、熊本市現代美術館の10周年事業の一環としてアートポリス関連事業が開催されるため、それへの参加と併せて、熊本市の文化・観光資源めぐりを中心としたまち歩きを企画しています。

研究発表申込みおよび参加申し込みについて

- ・研究発表申込み：7月上旬受付開始～8月上旬締め切り 学会ホームページよりオンラインにて受付予定
- ・大会フルペーパー受付：10月初旬～下旬予定 学会ホームページよりオンラインにて受付予定
- ・参加申し込み：10月上旬受付開始～11月中旬締め切り

学会ホームページよりオンライン、もしくはFAX・郵送にて受付予定

《支部活動報告》 北海道支部活動報告

日 時：2012年1月18日（水）19：00～21：00

会 場：札幌市民ホール会議室

講 師：穴澤義晴氏（(財)札幌市青少年女性活動協会
札幌市若者支援総合センター 館長）

テーマ：「だい・どん・でん」のマネジメント現状について

2001年から毎年9月に札幌市内中心部を歩行者天国にして行われるパフォーマンスイベント「だい・どん・でん」について紹介していただいた。

はじめに、「だい・どん・でん」の創設経緯や概要に関する説明によると、前身として3つのまつりがあったそうである。若者が中心となって開催した三世代交流のまつり「さっぽろふれあいフェスタ」(1993年～2000年)、札幌大通公園での「ストリートパフォーマンスカーニバル」(1995年～2000年)、街のまん中で美術を学んでいる学生たちによる美術作品の制作やパフォーマンスをやる「サッポロ・アート・パラダイス（さっぽら）」(1995年～2000年)。ストリートパフォーマンスを中心に合体させたのが「だい・どん・でん」である。このまつりは「札幌の中心部で行う大道芸のフェスティバル」、「誰もが参加できるまちのお祭り」、「若者とまちの人が連携した運営」という3つの柱をもとに、世界中で活躍する大道芸人から地域で活躍する市民パフォーマーや子どもたちまで、130組1400人以上のパフォーマー（主に大道芸人）が参加し、大道芸に限らずフラメンコ・アート・音楽のあらゆるジャンルのパフォーマンスが繰り広げられる。札幌市内各所（約22か所）で2日間、さらに1日4時間限定という短期集中型であるため、マネジメント側は

緻密なプログラムのスケジュール管理が求められるとのことである。

運営現状においては、札幌市経済局の中心市街地活性化事業の一環として始まったが、年間予算は年々減少し、2012年は700万円（2001年第1回目の時は2000万円）になりそうであるとのこと。主催は札幌大通まちづくり株式会社、共催は財団法人札幌市青少年女性活動協会、北海道新聞社、実行委員会形式で行っている。講師の穴澤さんは財団法人札幌市青少年女性活動協会の職員として人材派遣されているため、プロデューサーとしての謝礼は出ていない。収入源としては市の助成金が全てで、企業協賛も入場料収入も無い。パフォーマーへの謝礼は道外から招聘するゲストパフォーマー4～6組（1組4万円程度）にだけ支払っている。「収入0円、広報宣伝費0円を目指す！みんなが面白がって参加し、参加する側・観る側がロコミで情報を発信してくれれば良い」とおっしゃっていたのが非常に印象に残っている。実際に現在も広報宣伝にはあまり経費をかけずにロコミを主にしているが、15万人（2011年）が集まっている。

最後に大道芸ならではの投げ銭文化について熱い話が続いた。開催当初、札幌市は投げ銭を禁止しているが、根気強く交渉した結果、謝礼という位置づけで源泉徴収される条件で許可が得られた。投げ銭は一度主催側に入り、源泉徴収された金額がパフォーマーに渡っているそうである。観客は芸に対して「すばらしい！」と思った瞬間に投げ銭をするが、観客と芸人の間に生まれる一体感と同時に両者の駆け引きが面白く、また投げ銭の的確なタイミングを狙い合う観客の間には、ただならぬ緊張感が漂っているとのこと。「札幌の投げ銭文化の定着のために、頑張り続ける」と抱負を語っていただきました。（関 鎮京）

《支部活動報告》 関東支部活動報告

関東支部では昨年2月以来、日本の電子書籍市場に関する政策・動向分析をテーマとする研究会を連続して開催しているが、その第3回研究会を、2012年2月24日（金）、埼玉大学東京ステーションカレッジで行なった。

参加者は12名であった。

第3回は、電子書籍をめぐる社会的・政策的動向を、国のコンテンツ政策の現状と方向性という、より大きな文脈から捉えなおすことを目的とした二つの報告を基調に、参加者全員による討議を行なった。

先ず、実際にコンテンツ政策を担う立場から、経済産業省の須賀千鶴さん（商務情報政策局メディア・コンテンツ課課長補佐）が、「コンテンツ産業の現状と今後の

発展の方向性」について、大きく現状分析編と施策編に分けて報告した。コンテンツ産業に関わる諸統計に基づく現状分析と政策担当者としての最新の施策の紹介は、我が国のコンテンツ政策の現状と問題点を把握するために大きな参考となる報告であった。

また、柳の「コンテンツ政策を改めて考える—文化情報資源活用の観点から」は、コンテンツ政策をその核となるべき文化情報資源政策の確立という観点から再構築してみようという、かなり原理的な論点の提示となった。

現実の施策に基づく報告と構造的問題を論じた報告という、いわば両端からのコンテンツ政策のレビューとなったため、参加者からもそれに刺激を受けた積極的な質問・意見表明があり、活発な研究会となった。

主な論議としては、以下のような内容があった。

- 韓国のコンテンツ振興政策はめざましいが、その一方で単色的であり、日本の場合は多種多様な文化資源を活用するという別の方向をめざした方がいいのではないか。

- 孤児作品を活用するための制度的方策は、すべての文化的コンテンツに関わっており、当面国として関わるべき大きな課題である。
- 各地域に眠っている潜在的文化資源をどう評価し、発掘するか。地域のキュレーターやライブラリアンの役割は大きいですが、一方で内部の人が気づいていない文化的価値の発見には外部の目が不可欠だろう。
- 諸外国では文化省等に一本化されているコンテンツ政策や文化資源政策の担当が、日本では経産省、文化庁等バラバラになっているのは問題である。
- コンテンツ産業振興のソフト面のインフラとして、それを利用し、楽しむためのリテラシーが必要であり、そのための教育政策も重要だ。
- コンテンツの流通、輸出促進に関する現在の日本の政策に関して、質疑と議論があった。

終了後、参加者有志で懇親会を行なった。(柳与志夫)

《支部活動報告》 東海支部活動報告

東海支部では、3カ月に1回程度の頻度で研究会を行っている。今号では、本年3月に行った以下の研究会について報告する。

第5回東海支部研究会

2012年3月23日(金) 17時～

報告者：内藤美和氏(オフィス・マッチング・モウル)

論題：「アートで観光まちづくり」

開催場所：名城大学・名駅サテライト(MSAT)

内藤氏には、昨年名古屋大会でパネルディスカッションのパネラーとしてご報告頂いたが、大会では限られた時間であったので、改めて東海支部の研究会にお呼びした。報告は、内藤氏が関わっている愛知県内のプロジェクトの中から、名古屋大会でもお話頂いた佐久島に加え、豊田市小渡町と小牧市の3つの事例を取り上げ、それぞれの地域におけるアートと観光まちづくりの関連を中心に行われた。

愛知県西尾市にある佐久島のアートによるまちづくり

は、2001年に「三河・佐久島アートプラン21」としてスタートし、今年で11年目を迎えた。現在では、年間8万人程度の観光客が来島するようになり、ここに至るまでの様々な経緯をわかりやすくお話し頂いた。特に、「祭りとアートに出会う島」というコンセプトの作成、佐久島の自然と歴史を利用した芸術作品の展示、地域住民に(現代)アートを理解してもらうことの重要性、「佐久島八十八ヶ所弘法巡り」・「佐久島アートピクニック」・「大学対抗リノベーション大会」などのプロジェクトの企画と現状等々について、実際のパンフレットや写真などを利用しながら丁寧な説明を受けた。特別な美術館などがあるわけでもないし、作品も毎年ごくわずかず増えていく程度で派手さはないものの、地域に密着した地道な活動が来島者にも地域住民にも理解されているという状況が伝わってきて、すぐにでも(改めて)佐久島を訪れたいという気持ちにさせてくれる報告であった。

次に取り上げられたのは、内藤氏が観光アドバイザーを務める豊田市小渡町についてである。水の郷百選にも選ばれている水の流れに囲まれたこの地で、従来から行われていた「夢かけ風鈴まつり」をまちづくりに生かすために、どのような仕掛けを考え、実現してきたのかに

関して、パンフレットや地図の作成、風鈴の飾り方の工夫、願掛け風鈴のアイデアなど、今後の課題を含めてご報告頂いた。

最後は、小牧市で今年3月18日に行われた「小牧戦国文化祭」についてである。これはもともと内藤氏が担当した小牧市のアートマネジメント講座の参加者の発表会としての位置づけであったが、地域の様々な方を巻き込み、陣中茶会、戦国料理教室、歴史講演会、陣中将棋大会、甲冑体験などのアクティビティーを企画し、市民文化祭として行われたイベントである。織田信長が初めて城下町を創ったという小牧の歴史性を反映させるとともに、受講生の多様な背景を生かしたイベントであったようである。

いずれの事例についても、アートによるまちづくりには住民・行政・アートの専門家の三者のバランスが重要であるという内藤氏の考えが、随所に散りばめられた内容であった。

報告後は、参加者の質問とそれに対する回答を通じて、活発な議論がなされた。そのうちのいくつかを紹介すると、佐久島の野外作品のメンテナンスや展示の説明はどうしているのか、市町村合併により佐久島は一色町から西尾市へ、小渡は旭町から豊田市へとそれぞれ編入されたが、その影響はどのようなものであったのか、佐久島などの地元の方々がアートを受け入れてくれた理由は何か、などである。

研究会のあとはMSAT内のラウンジにおいて、内藤氏を交えて有志で懇親会と称しワインなどを飲みながら楽しく語り合い、研究会では聞けなかった裏話的な内容も聞くことができ、非常に有意義であった。

年度末の平日の開催ということもあり、参加者は10名程度であったが、東海地区以外からの参加もあった。今後も多くの皆様のご参加をお待ちする次第である。
(勝浦正樹)

《支部活動報告》 関西支部活動報告

関西支部平成24年度第1回支部研究会報告

関西支部では、4月28日(土)に大阪市北区のキャンパスポート大阪にて、平成24年度支部総会ならびに記念講演を含む第1回研究会を開催しました。支部総会では、有馬昌宏支部長から平成23年度の事業報告と決算報告、平成24年度の事業計画と予算案が説明されて承認され、6月のACEIの第17回大会への協力が河島伸子理事長より要請され、了承されました。総会終了後、佐々木雅幸前会長のオーガナイズで記念講演と2件の研究報告がなされましたので、以下にその内容をご紹介します。

記念講演：「都市祭礼の持続可能性について—祇園祭とだんじり祭—」

講演者：山田浩之氏(京都大学名誉教授、元文化経済学会副会長)

講演では、まず、無形文化遺産としての祭りの進化・変容を解明された。祭りが古代から現代にかけてどのように変化してきたかについて、宗教的な要素の強い神事

に奉納行事が付加されて「風流」として大衆化していく中で、文化的要素である祭礼行事が加わり、さらに「する祭り」から「見られる祭り」という流れの中で「見せる祭り」としての経済的な要素である観光行事が加わった、との分析がなされた。

次に、都市祭礼の文化経済学からの分析があり、祭礼とは、神輿・山鉦・山車などの有形文化資本、祭礼を運営する組織やノウハウという無形文化資本と祭礼労働の三つの要素によって生産されるものであるが、一般的な財・サービスとは異なり、祭礼労働者は同時に祭りの消費者でもある点、すなわちコミュニティの構成員が自らづくり、自ら楽しむ財であり、その意味でコミュニティ財(共同体財、コモンズの種類)とみることができるとの解明がなされた。

また、祇園祭とだんじり祭の収支を比較した表が示され、同じ祭りでありながらも、祇園祭においては資本のオフシーズンの賃貸や物品販売といった事業を通しての財産・事業収入が多いのに対し、だんじり祭においては会費および寄付で運営資金の大部分が賄われているなど、それぞれの運営の方針が異なることが説明された。また、支出面においても、祇園祭においては支出の10~20%を労務費が占めているのに対し、だんじり祭に

においては労務費の支出は存在しない。この点において、だんじり祭は参加者が生産し消費する自己生産自己消費の性格が強いコミュニティ財であるのに対し、祇園祭はよりオープンな財であると言うことができるだろうと述べられた。



講演される山田浩之氏

最後に、祭りの意義として、コミュニティのアイデンティティ維持や伝統の継承といった文化的意義および産業振興およびブランディングといった経済的意義があること、また課題としてヒト・モノ・カネの確保や、伝統の継承にとどまらない文化創造の必要性がある、として講演を締めくくられた。

講演後の質疑応答の中では、神酒が参加者に振舞われる例を挙げて「神事」と「祭礼行事」を厳密に区別することは難しいのではないかという指摘や、人口減少などで地域住民だけでは成立しなくなった最近の祭礼はコミュニティ財からクラブ財へと変容していると解釈してはどうかといった議論が展開された。

(有馬典孝・佐々木雅幸)

研究報告 1：「創造農村とホスピタリティー 20 有余年にわたるグリーン・ツーリズム研究からの一考察」

発表者：多方一成氏(大阪成蹊大学マネジメント学部教授)

グリーン・ツーリズムにおける「グリーン」には単に自然ということではなく生命の尊重、資源の適正利用、多様性の評価といった意味合いも含まれており、グリーン・ツーリズムとは旅行を通して自然環境や文化、自己の行動といった人生観やライフスタイルに影響を与える活動であるといえる。グリーン・ツーリズムは過去に農山漁村の経済・社会活性化および環境保全を目的として推進されてきたが、成功例は決して多くないという現状がある。そのような中においては、上下関係が明確である

「サービス」とは異なり、対等の立場で相手を尊重したおもてなしを行う「ホスピタリティー」の精神を発揮することで信頼・信用・安心感が生まれ、消費・購買活動につながるものが期待されるが、農村においては個人というミクロのレベルでは高い水準のホスピタリティーが提供されているのに対し、地域というよりマクロなレベルではホスピタリティーの水準が高いとはいえない点が課題であり、「創造農村」への挑戦および「ローカル・ホスピタリティー」の創造が農村には求められていると締めくくられた。

研究報告 2：「ソーシャルネットワークを介したデザイン活動の可能性：ブエノスアイレスの事例から」

発表者：鈴木美和子氏(大阪市立大学創造都市研究科 客員研究員)

アルゼンチンは2001年にデフォルトを経験しているが、2003年から「国家デザイン計画」として創造産業を支援する政策を推進しており、2010年の段階でGDPの0.44%を占めるに至っている。発表では、ブエノスアイレスならびにアルゼンチンにて展開されているデザイナーネットワークの事例が幾つか紹介された。2001年後に無職のデザイナーたちが集積、起業することによって生まれたパレルモ・ソーホーというファッション先進区域がその一例である。アルゼンチンのデザイナーによる中小企業の85%以上は2001年以後の設立であり、9,500万ドルの売上げをあげているとのことであった。特に近年は、ICTの発達によりデザイン分野においてもネットワーク化が進展しており、ソーシャルメディアの活用一方で、市民社会組織の影響、政策のネットワーク化、オルタナティブなデザイン活動の追求などの要素を通してデザイン活動の民主化が進んでいくのではないかという展望が語られた。(有馬典孝・有馬昌宏)

季刊「文化経済学会」 No. 81
2012年6月5日発行
ISSN 0918-3787

発行 文化経済学会<日本>

発行人 後藤 和子

編集人 佐々木 亨

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10 アーバン大塚3F

(株)ガリレオ 学会業務情報化センター

E-mail : g018jace-mng@ml.gakkai.ne.jp

URL : <http://www.jace.gr.jp/>

© 2012, Japan Association for Cultural Economics